

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズ・トーン			
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 01日 ～ 令和 7 年 12 月 10 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 15日 ～ 令和 8 年 01 月 15 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 01月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別指導を中心に、子供それぞれに合った様々なプログラムを提供できる。	5領域をしっかりと網羅した内容となっている。	プログラムの内容及びその意図を、振り返りにより保護者に周知・共有し、家庭での実行を促す。
2	小集団指導も行い、それぞれの意図に沿った様々なプログラムを実施している。	発達の程度や年齢に応じた小集団を組んでいる。	子供同士のやりとりの機会を増やす。
3	利用者の年齢層の幅が広く、それぞれに応じた対応を行っている。	一人ずつの成長に寄り添い、それぞれへのアプローチを深くしていく。	成長の様子を様々な年齢層の子供を持つ保護者同士で連絡、共有することで、育児の不安を和らげる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者数が多いことにより、スタッフに過度な負担がかかりやすい。	個別指導を主とすることによる弊害。	作業手順、及び仕組みを整理することで、スタッフの負担を減らし、子供との時間を充実させる。事業所に義務付けられた作業及び提出必要書類等の数が減れば、確実に負担は減る。
2	送迎がないため、来所する利用者の層に限られる。	人員、設備の不足。	そのような状況でも来所していただけるように指導内容を充実させる。
3	施設専用の駐車場がなく、駐輪場も狭い。また公共交通機関のアクセスも若干不便といえる。	立地の問題。	駐輪スペースの整理、及び近辺駐車施設の案内などを充実させる。